

■サンタアニタトロフィー（SIII）アラカルト（過去全 37 回の分析）

※第 1 回（昭和 55 年）から第 16 回（平成 7 年）までは「関東盃競走」の名称で実施

※第 23 回（平成 15 年）から第 24 回（平成 16 年）までは大井ダ 1590m で実施

※第 32 回（平成 23 年）は大井ダ 1800m で実施

※第 32 回（平成 23 年）は国際招待競走、別定競走として実施

※記録は平成 29 年 7 月 5 日時点

■単勝 1 番人気馬より単勝 2 番人気馬の方が 3 着内率は高い

単勝 1 番人気馬は 11 勝、2 着 6 回、3 着 1 回で、連対率が 45.9%、3 着内率が 48.6%となっている。一方、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 7 回、3 着 6 回で、連対率が 35.1%、3 着内率が 51.4%だった。連対率は単勝 1 番人気馬の方が高いものの、3 着内率は単勝 2 番人気馬の方が上だ。

■上位人気馬が 1～2 着を占めた回は少ない

過去 37 回のうち 22 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。もっとも、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 6 回だけだ。ちなみに、単勝 5 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 21 回ある。

■優勝馬の大半は 4～5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 13 勝、5 歳が 12 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 3 勝となっていた。なお、3 歳の馬は第 3 回のレイクルイーズを最後に優勝例がない。

■“トップハンデ”の馬は 8 勝

過去 37 回のうち 8 回は、もっとも負担重量の重い馬が優勝を果たした。一方、もっとも負担重量の軽い馬が優勝を果たしたのは 2 回だけである。なお、優勝馬の負担重量は第 6 回のテツノカチドキに課されていた 59.5kg が最高、第 2 回のダイロクホームイと第 3 回のレイクルイーズに課されていた 50kg が最低だ。

■ 牝馬は2勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第3回のレイクルイーズ、第9回のイーグルシャトーと、これまでに2頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第25回でナイキゲルマンが、第28回でシーチャリオットが2着となったものの、まだ優勝例がない。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「6」

騎手別の勝利数を見ると、6勝の的場文男騎手が単独トップ。第2回、第4回、第7回、第21回、第27回に加えて昨年の第37回でも優勝を果たし、4勝で続く石崎隆之騎手、張田京騎手を突き放した。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の大山末治調教師、月岡健二調教師がトップタイである。

■ 1～4枠よりも5～8枠の方が優勢

枠番別勝利数を見ると、8勝の6枠が単独トップ。7枠が6勝で続いている。なお、5枠と8枠もそれぞれ5勝しているが、1～4枠はいずれも4勝以下だ。また、馬番別勝利数を見ると、5勝の6番が単独トップ。8番が4勝で続いていた。

<伊吹雅也>